

令和6年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

県立新庄南高等学校金山校

育てる生徒像	①思いやりがあり、明朗で協調性のある生徒 ②郷土に愛着を持ち、地域に役立とうとする生徒 ③学習と部活動の両立により心身を鍛え、主体的に学ぶ意欲的な生徒
--------	--

重点目標	1 中学校との連続性をつくり、生徒一人一人に合った学びにつなげる。
	2 生徒の実情に応じたキャリア形成環境をつくり、生徒の学ぶ意欲につなげる。
	3 多様な交流の場をつくり、人と人との関わりを生徒の成長につなげる。
	4 魅力ある開かれた学校づくりを推進する。

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

自己評価							学校関係者評価	
番号	評価項目	具体的方策	達成度	達成状況	評価指標	次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	自ら学ぶ力を生きていく力につなげる	(1)疑問を持つ予習と、定着させる復習の習慣を確立して、自ら学ぶ力を育成する。	C	2.6	4段階自己評価の平均3.0以上	達成度C(やや不十分)が目立つ。生徒アンケートや保護者アンケートの結果も、ほぼ同様であった。また、達成状況が昨年度比で(1)と(4)がそれぞれ、-0.2、-0.4となった。予習・復習を意識した授業づくりや、中学校のICT活用授業の調査研究を進める。	D	1年生の成長を感じる。他県の高校生とのオンライン合同授業は自分の学びをアウトプットする良い機会だと思う。PCの活用はまだまだ改善点を探しだせそう。個人の学習能力に合わせて、PCやICTを活用した授業、家庭学習が必要。DXを有効活用して、社会で生きる力を身につけてほしい。学力向上にも一工夫。
		(2)一人一台PCを活用した学習支援により、求められる知識・技能を身に付けさせる。	B	3.1				
		(3)授業やホームルームで、生徒自身のメタ認知(自分の思考や行動を客観的に把握し認識すること)を支援し、学びに向かう力と人間性を育成する。	C	2.8				
		(4)中学校のICT活用授業を調査研究し、教科書や教材を十分に活用した学習と授業を目指す。	C	2.5				
2	生徒の意欲を協働、協働を探究につなげる	(1)「総合的な探究の時間」の改善を図り、自己の生き方につながる資質・能力を身に付けるための教育プログラムを確立する。	B	3.1	4段階自己評価の平均3.0以上	(2)金山校の良さ(小規模校・少人数)については、昨年度に引き続き生徒及び保護者からのアンケートでも評価が高かった。達成度は昨年度と同様であったが、達成状況は全体的に若干低い値となった。「総合的な探究の時間」の更なる改善を図る。	A	子供たちも保護者も小規模校のよさは評価している。協働を基本理念に学びに取組み、成果が上がっている。多様な活動は金山校の魅力であり、長年の積み重ねの成果だ。アップデートを繰り返し、より良い成果に期待。興味関心等があった場合に積極的に活躍の場をつくる事が必要。
		(2)小規模校・少人数の良さを生かし、生徒一人一人が活躍できる場をつくるとともに、他の小規模校との交流を促進する。	A	3.5				
		(3)最上学・卒業研究における探究サイクルを回しながら、地域体験学習の発表を充実させる。	B	3.3				
		(4)生徒自身が自己の伸びや成長を実感しながら進路実現ができるよう、進路指導力の向上を図る。	B	3.1				
3	人と人との関わりを成長につなげる	(1)「時間を守る、整理整頓、元気な挨拶」を学校生活の日常とさせ、社会的資質・能力を育成する。	B	3.1	4段階自己評価の平均3.0以上	昨年度、達成度がB(概ね達成)だった(3)がCとなった(達成状況で昨年度比-0.5)。この結果を重く受け止め、人権尊重の精神を貫いた教育について、次年度は特に力を入れて取り組む。	C	人との関わり方に成長を感じる人が多い。町内では様々なイベント等が開催されている。社会に出る準備としていろいろな経験をさせたい。高校生で身に付けたいスキルや習慣の確立を。「当たり前のことがきちんとできる」ように生徒の自立化を進めてほしい。
		(2)元気な学校行事に取り組むとともに、キャンパス制に係る連携・交流活動により、学校生活を豊かで充実したものにする。	B	3.2				
		(3)全ての場面において、「自分と他の人の大切さを認める」という人権尊重の精神を貫いた教育を行う。	C	2.8				
		(4)校外地域貢献活動を日常化することを支援し、多様な人々との関わりの中で育つ環境を提供する。	B	3.2				
4	魅力ある開かれた学校づくり	(1)「中学生との学校活動連携プロジェクト」で金山中との連携を強化するとともに、金山町の協力による学校魅力化を推進する。	B	3.2	4段階自己評価の平均3.0以上	「中学生との学校活動連携プロジェクト」は2年目となった。より多くの中高生が参加できるよう、中学校と更に連携を深める。教職員の「働き方改革」の視点から、新しい行事を作るのではなく、既存の行事を合同で行う等の工夫が考えられる。	B	学校HPや公式インスタグラムで生徒たちの豊かな表情が伝わってくる。金山校の工夫の取組みがもっと中学生に身近なものとなるように。さらに深く中高連携を深め、金山中から多くの生徒が進学したいと思える発信を。(3)は予算が少ない中でできてに敬意を表したい。
		(2)生徒や保護者、中学生等に「伝わり、届く」情報発信を推進する。	B	3.1				
		(3)安全と安心をベースに、生徒の学びと教師の働きを支える学校施設設備の整備・管理を推進する。	B	3.1				
		(4)教職員の「働き方改革」を推進するため、時間外勤務時間を削減できるように業務の見直しを図る。	B	3.3				

学校関係者評価基準	A:十分評価できる B:まずまず評価できる C:一部見直しが必要である D:根本的な見直しが必要である ①評価指標(自己評価の平均3.0)及び評価基準(A=3.5以上、B=3.0以上、C=2.5以上、D=2.5未満)
-----------	---

学校関係者評価を踏まえた改善点等	・生徒一人ひとりの学力向上のために、ICT等の有効な活用の研究を進め、自らの成長が実感できる授業を目指す。 ・生徒一人ひとりの成長につなげるために、金山町や地域との連携を更に図り、交流やボランティア活動等を通し社会で生きるためのスキルを身に付けることを目指す。
------------------	---